

クに対し、ポリミキシン B 固定化ファイバー (PMX) によるエンドトキシン吸着療法を施行した。PMX 治療により、低酸素血症の速やかな改善が得られ、ARDS に対する有効な治療の 1 つと考えられた。

34. 慢性透析患者に対する肺扁平上皮癌の 1 切除例

千代雅子, 安川朋久, 野本靖史
飯笹俊彦, 柴 光年
(千大・肺外)
豊崎哲也 (同・病理)

症例は48歳男性。31歳時慢性腎不全のため透析導入した。平成9年6月咳嗽, 血痰出現。経気管支生検にて左肺扁平上皮癌と診断され, 手術目的に当科受診した。10月7日気管支形成術をとまなう左上葉切除施行。術後, 貧血, 気道感染症, 吻合部治癒遅延等を合併したが重篤化せず術後6週間で退院した。慢性透析中の肺癌症例でも, 計画的な術前術後管理により, 積極的な外科治療が可能と考えられた。

35. 右上葉切除術後, 乳糜胸及び胸水中に MRSA を認めた肺扁平上皮癌の 1 例

川野 裕, 土田大介, 谷嶋紀行
田中英穂, 小山隆史, 井上育夫
安野憲一, 福田 淳
(小田原市立・外科)
黒田文伸, 高村 大, 河野典博
(同・呼吸器科)
長谷川章雄 (同・病理)

症例は74歳男性, 扁平上皮癌を疑われて当科受診, 右上葉切除術を行なった。術後, 乳糜胸を認めたため, 数回にわたり胸膜癒着術を施行。その後, 乳糜確認のため提出していた胸水より MRSA が検出されたため, 有効抗生剤を用いて胸腔洗浄を行なった。幸い MRSA 膿胸は治癒したが, 胸膜癒着術に使用した, ブロンスマ・ベルナ, OK-432, あるいは胸膜癒着術そのものがその治癒に寄与した可能性が臨床経過より示唆される。

36. 腺様嚢胞癌の 1 手術例

武田恒弘, 卜部憲和 (沼津市立・呼吸器外科)

症例は70歳, 男性。血痰を主訴に当科入院。気管下部の右外側壁から右上葉入口部にかけて隆起性病変を認め, 生検で腺様嚢胞癌の診断を得た。Nd-YAG Laser で腫瘍の一部を焼灼させた後, 手術を施行した。気管分岐部から気管右側壁 4 リングを斜めに切り上げ, 気管分岐部と気管壁で作成した吻合口に中間気管支幹を吻合するスリーブ上葉切除術を施行し, 吻合部は大

網で被覆した。吻合部の治癒は良好であり, 術後放射線療法を加えた。

37. 肺小細胞癌による広範囲気道狭窄に対してダイナミックステント及び金属ステントを挿入した 1 例

岡田 理, 阿部雄造 (千大・肺内)
安川朋久 (同・外科)

肺小細胞癌による下部気管から左右主気管支・右中間幹にかけての気道狭窄に対し, ダイナミックステント及び金属ステントを挿入した。ステントにより気道確保できたが, 挿入後45日後に咯血により死亡した。咯血死が癌によるものかステントの合併症であるのか不明であるが, 現在当科では, 気道損傷を抑える目的でメッシュ状で柔軟性の高いウルトラフェリックスステントを使用している。

38. 胸腔鏡下手術におけるバルーンによる Water sealing test の有用性

吉田成利, 山田英夫, 朝長 毅
軍司祥雄, 坂本 薫, 柏原英彦
横山健郎 (国立佐倉・外科)
藤澤武彦 (千大・肺外)

胸腔鏡下手術手技における難点の 1 つである Water sealing test に対して, 腹腔鏡下手術で用いる PDB (preperitoneal distension balloon) を使用した。肺を適度に圧排しながら, バルーンを通して良好な視野が得られた。形状改良にて有用な手術器具となる。

39. 自然気胸に対する胸腔鏡手術の術後再発 (長期成績から見た問題点)

栗原正利, 武野良仁
(日産玉川・呼吸器外科)
長 晃平, 中村 晃, 小沢志朗
(同・内科)

自然気胸に対する胸腔鏡手術は開胸手術に比べ再発率が高い。原因は胸腔鏡による肺表面の観察が不十分となりやすいためである。肺表面を胸腔鏡で観察する場合, 胸腔鏡の欠点を理解するべきである。術後再発を減らす為には, 何らかの追加治療を要する。吸収性メッシュによる covering と fibrin glue の塗布は有効である。